

中学校国語科指導法研究会グループ研究会

グループ員：川上 史子 (東中学校)	河野 智文 (西中学校)
新立 隼也 (西中学校)	朝井 満理奈 (北中学校)
竹内 祐子 (北中学校)	阪田 彩香 (北中学校)
大島 淳 (天王寺川中学校)	仲上 寛紀 (天王寺川中学校)
廣 一登 (松崎中学校)	能登 まゆ子 (松崎中学校)
山下 葉月 (松崎中学校)	村上 裕 (荒牧中学校)
窪田 えみか (笹原中学校)	山岡 永美 (笹原中学校)

担当指導主事：八東 伸明

キーワード：言語活動 アクティブ・ラーニング 読む 書く 授業力の向上

1 研究テーマ

「国語科指導法についての研究」

2 研究内容

現在伊丹市では若手教員が増加している。退職等によりベテラン教員が減少するなか、学校によっては、経験年数の少ない教員でも、自分の知識だけで授業せざるを得ない。優れた諸先輩方の知識や技能を学ぼうにも、その場がないのである。そこで今年度は、各校の国語科教科代表者を中心に、中堅からベテランの教員を講師として招聘し、それぞれの授業実践等について発表をしていただいた。

(1) 研究授業

東中学校 川上 史子 教諭による、言語活動を取り入れた授業の公開、事後研修会を行う。

(2) 講話 「アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の授業」

講師 東中学校 横内 愛 教諭

- ① アクティブ・ラーニングとは何か
- ② 文学の授業実践の紹介

(3) 講話 「国語教師の楽しみ方」

講師 天王寺川中学校 兼山 美由紀 教諭

- ① 国語教師の素晴らしさ、おもしろさ
- ② 具体的方策（実践）の紹介

(4) 講話 「国語力 ～書くこと～」

講師 南中学校 甲斐 公美子 教諭

- ① 「書くこと」とは
- ② 「書くこと」実践例

(5) 講話 「生徒に興味を持たせる古典指導について」

講師 荒牧中学校 二宮 啓二 教諭



3 成果と課題

(1) 成果

- ① ベテラン教員の具体的実践を聞くことで、その手法を授業に取り入れていくことができ、参加者のスキルアップにつながった。
- ② 教材研究の方法や、授業に対する熱意を聞くことで、参加者の授業づくりに対するモチベーションが高まった。
- ③ 講師の講話から、国語教育への情熱が伝わり、「国語は楽しい」と原点に戻ることができた。
- ④ 研究会の時間だけで終わらず、授業見学の依頼ができたり、資料の提供依頼ができたりと、

学校の枠を越えてベテラン教員の知識・技能を継承する土壌作りができた。

(2) 課題

- ① 基本的に「教科代表者会後の開催」としていたため、日程調整が難しかった。
- ② 今後も継続して若手教員同士が、教科指導の悩みを打ち明ける場の設定が必要である。
- ③ 質問時間に活発な意見交流ができなかった。研究会の中で様々な討議が行えるような、雰囲気作りが必要である。